

## 平成 21 年度第 2 回内灘町地下水採取規制審議会

◆質疑応答◆ 主な質問と回答の概要については、次のとおり。

### ★地下水について

【Q 1】地下水保全のために、一般住民に出来ることはあるのか。

《A 1》地下水を涵養するために、地面を全て舗装するのではなく、舗装する場合でも雨水浸透枡を設けたり、地下に水がしみ込みやすい舗装をすることが考えられる。また、家庭用の井戸所有者は必要のない時に地下水を利用しないように気をつけることも大切だ。

【Q 2】ここ 10 年くらいで、地下水位の変化はあったのか。

《A 2》内灘町では、地下水位に大きな変動は見られないが、とにかく地表部からしみ入る水を大切にしていきたい。

【Q 3】県道松任宇ノ気線の大根布 3~4 丁目付近や、向栗崎の大野川沿いの一部では、側溝とアスファルトの隙間から水がしみ出てきているが、なぜか。

《A 3》砂丘層に水を含んだ層があるが、砂丘の高いところでは圧力が高いが砂丘の端のところでは圧力が低いため、水がしみ出ることがある。

【Q 4】融雪で地下水を出しっぱなしにすると、地下水位は下がるのか。

《A 4》はい。特に内灘町では利用の多い第 2 帯水層（地表から 50m から 100m ほど下の水分を多く含んだ地層）に影響が出ると考えられる。

【Q 5】地下水の実際の問題などを教えてほしい。

《A 5》内灘町では著しい問題はないが、地盤沈下については、大都会で沈下が著しいため、地下水を使用しないという内容の条例を設けたという事例があるほか、1m ほど地盤が下がった場所があり洪水被害を受けやすくなったという極端な例も見られた。これらは、行政が動いて地下水位が回復して現在は横ばいとなっている。地盤が収縮する時間より、回復に要する時間のほうが長いいため、地下水保全は大切である。

【Q6】海側井戸の地下水塩水化が進んでいるということだが、今どの程度であり、かつ大丈夫といえるものなのか。

《A6》農業用のある井戸では、近年塩化物イオン濃度の上昇が見られるため、このままいくと農作物が発育不全になったり影響が出るおそれがある。以前、塩化物イオン濃度が当初の10倍以上になり廃止された井戸もある。ちなみに、飲用基準は200mg/L以下であるが、海に近いところでは、地下水位を下げないためにも過剰な揚水をさけ、また、地下水の涵養も重要である。

【Q7】地盤沈下は、地下水のくみ上げによるものか、それとも土地の地盤がゆるいのか。

《A7》埋め立てた場所では、土地の地盤がゆるいことがあり、そこに構造物が建てられたりするとその重みで沈下することがある。ただ、一般的には地盤そのものに起因するのか、もしくは地下水の使いすぎによる影響かの判断はむずかしい。

【Q8】内灘町で一番深い井戸は何mなのか。

《A8》約400mの深さである。

★千鳥台 道路消雪用井戸について

【Q1】色度の値が高いが、出ている水は白いのか。

《A1》鉄やマンガンが多いので、酸化して赤茶色もしくは黒色を呈することがある。その影響により、道路表面は次第に茶色味を帯びてくる。